

第2回 いわき市台風第19号における災害対応検証委員会議事録

- 1 日 時 令和2年2月12日（水） 午前10時00分～正午
- 2 場 所 市本庁舎3階 プレスルーム
- 3 出席者
 - (1) 委員 （出席：8名）
金成克哉、鹿野義明、鎌田真理子、佐藤将文、篠原清美、杉安和也、
丹野淳、福迫昌之
※ 50音順・敬称略
 - (2) 事務局 総合政策部 山田危機管理監
危機管理課 草野課長、松田主幹兼課長補佐、
野木危機管理係長、関本主査
保健福祉部 飯尾部長
保健福祉課 駒木根課長
土木部 河川課 小松課長 山野辺専門技術員
消防本部 総務課 大平課長、富谷課長補佐
警防課 鈴木課長
- 4 会議形式 非公開（冒頭のみ公開）
- 5 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 議事
ア 台風第19号の災害対応に係る検証について
① 情報伝達のあり方について
 - (3) その他
 - (4) 閉会
- 6 議事
台風第19号の災害対応に係る検証について
＜事務局説明＞
 - 第2回 いわき市台風第19号における災害対応検証委員会資料に基づき説明を行った。
＜委員＞
 - 情報の伝達については、市の方はそれなりにきめ細かく発信はしていたが、高齢者等の情報弱者と言われる人の目線に合わせた情報伝達ではなかった。また、内容が極めて分かりにくかった。
 - エリアメールの内容に夏井川、平窪といった言葉が出てこない。一番重要性の高かった赤井、平窪地区の捉え方が抜けていたと思う。

<事務局>

- 小川の下流域の水位観測所が、鎌田、中神谷の2箇所だったことから、メールの内容に鎌田、中神谷という言葉を使ってしまい、わかりにくい表現となってしまった。今後、表現の仕方を改善していく必要がある。

<委員>

- 10月25日の場合だと消防署でサイレンを鳴らしたことによって、住民への注意喚起に繋がった。地元の消防団ではそんな余裕が無かったから致し方ないが、そういうことも必要だと思う。防災ラジオについては、せめて行政区の役員、俗に言う3役クラスまで配備しておくべきだと思う。

<事務局>

- 防災ラジオの配布については、自主防災組織の代表者や民生児童委員に配布している。これまで、避難勧告等を発令する際に防災ラジオからは流していなかったが、1月29日の大雨時に避難勧告等を発令した際には、FMいわきからの割込み放送を実施した。今後も防災ラジオの活用について検討していく。

<その他意見>

- 防災無線は、東日本大震災後に沿岸部には整備されたが、ハザードマップの浸水範囲内には整備されていない。水害が起きそうなところには、防災無線の整備も検討していく必要があるのではないかな。
- 家の中にラジオ等が無くても聞こえてくるプッシュメディアと呼ばれる危険の情報を受けても、避難するまで2時間かかると言われている。情報に関心ない人や避難所に行くことを遠慮する人を、行動に結びつける仕組みづくりが重要なポイントとなる。
- 土砂災害については、反省点として挙がっているものが特に無く、資料の中に改善点というものが記載されていないことから、当委員会において検証してほしい。
- 堤防の強化や川底に堆積した土砂の撤去等の河川改修に係る話は、当委員会とは別の対応となるが、市でも状況を把握しておく必要があるのではないかな。
- 防災メールを使って、台風シーズン前のタイミングや特定の日に、地域における災害リスクの注意・喚起を行うべきではないかな。
- 災害の対応を行政任せにするのではなく、地域住民も一緒になって考えてくれるように仕向けることも大事である。

7 その他

- 次回の委員会について
 - ・ 日時 令和2年4月（詳細日程は後日調整）

8 閉会